

# 安全管理サイガードについて

## 株式会社建設システム

### 1. 安全管理サイガード

#### 概要

入札・契約制度の大きな変化や過度な受注競争など、公共工事を取り巻く環境が大きく変動している昨今、公共工事の品質確保の問題とともに、建設現場における安全対策においても、落札率が低くなるほど下請企業の赤字や工事成績が悪くなる傾向が著しく、建設現場の労働衛生面においても下請労働者へのしわ寄せが問題となってきている。厚生労働省の統計によると全産業の就労人口のうち建設業の占める割合は8%程度であるが、産業別労働災害比率では製造業について多く、全体の2割を占めている。このため2000年頃から発注者の管理が強化され、建設業の労働災害を低減する対策は引き続き強化されている。

#### 建設現場で発生する事故の傾向

建設現場での事故の傾向をみると、以下のような傾向がみられる。

- 下請け作業員の事故が多い
- 作業員の不注意による事故が多い
- 夕刻や気温の高い日など、疲れのたまる時間帯や日に多く発生
- 交通誘導員のもらい事故

このように、過去どのような事故が起こっているか、また他社はどのような安全活動を行っているかなど、事例を知り、自社に照らし合わせて安全対策を行う事が重要である。

#### システム導入による特長

そのために、公共工事では月に4時間以上の安全訓練が求められているが、内容が陳腐化していたり、形だけのものになっているケースも少なくない。他の事例を知り、取り入れられそうなアイデアを情報収集する事で、より現場に即した安全訓練となるが、情報収集に時間が掛かるといった問題が内容の陳腐化につながっている。また、せっかく収集した情報も、その場限りのものとなっており、社内共有できていないため、情報が孤立し、結果としてまた情報収集に時間がかかるといった悪循環を起こしているのである。そこで、安全管理サイガードは、豊富な災害事例、ヒヤリハットをローカルのシステムに搭載するのではなく、インターネット上のマスタで管理することで、常に最新の情報を得ることができ、同時に情報共有を実現している。さらに、公共工事では、自社（元請）の作業員だけでなく下請けや関係会社など複数の会社が日々出入りしていることから、現場に出入りする作業員の健康管理や、使用する機械や重機の車検や点検期限といったチェックを紙媒体

で実施し記録しているが、これらをシステムに記録することで、期限切れ間近や期限切れといった情報も警告表示されるようになり、漏れのない管理が実現できる。この時必要となる作業員名簿に関しては、システム入力の手間を省くため、作業員名簿の内容を自動でシステムに読み取る機能を搭載している。（システム上からアウトプットしたExcelの作業員名簿を利用）

また、公共工事で努力義務化されているリスクアセスメントを実施する場合は、作業に怠じた安全対策の立案や、予測されるリスクに対する見積もり、そして優先度の決定作業が重要且つ大変な業務であるが、本システムでは、リスクアセスメントマスタを搭載しているため、施工計画書に記載した作業内容に怠じた対策をマスタから抽出し、それらに怠じたリスクの見積りが自動反映され、リスクの優先度が算出される。この機能により、リスクアセスメント立案に掛かる時間が大幅に軽減され作業効率アップに繋がる。



#### まとめ

安全管理と言えば、「リスクアセスメントを行う」といった手法ばかりが注目を浴びてきたが、自社のノウハウを蓄積して次回の工事に利用する活動が重要だ。自社のノウハウの蓄積とは、現場で実際にどのような対策が行われているか把握し、発生した指示・是正を次へと活かしていくPDCAサイクルのことである。それらの仕組みづくり異端を担うため本システムを開発した。建設会社の安全管理の仕組みの一端として本システムの効果を期待していただきたい。